

さよなら
そして
こんにちは



過去から現在、未来へ。
いよいよ石神井高校の校舎の改築が始まりました。思い出しても埃っぽい記憶しかない現在の校舎ですが誰かには大切な思い出の場所かもしれません。今年は懇親会に先立ち、校舎内のお別れツアーを企画しています。夏には姿を消す校舎の見納めに、母校を訪ねてみませんか？



石神井高校同窓会誌
「きずな」第54号
平成17年6月発行
発行：
都立石神井高等学校
同窓会広報委員会

きずな54号

同窓会役員の改選が行われます。
今年には懇親会の時間が変更になります。
取り壊される旧校舎のお別れ会を行います。
石神井の現役生に取材しました！

今年の同窓会総会・懇親会は7月2日土曜日に開催されます。
当日は「校舎のお別れ会」を行う予定です。

同窓会総会	13:00より	母校会議室
校舎お別れ会	14:00より	
同窓会懇親会	15:30より	母校多目的室



非常階段から南を望む

5月現在、仮設校舎の建設工事が始まり、グラウンドが2分されてしまいました。また、A棟と体育館の間は工事車両の通路になり、2階でしか行き来ができません。いままで通れたところに突然壁ができてしまい、様子が徐々に変わっています。



門からすぐ左手を見る

黒菱山荘を知ってますか？

黒菱山荘は、スキーのメッカ、長野県白馬の八方尾根にある石神井高校の山荘です。同窓会の山荘委員会が管理しており、石神井高の生徒・同窓生はもちろん、父母・教師も利用することができる施設

です。12ページに利用方法のご案内を載せておりますので、皆さんで利用しましょう。

8月に石神井高校同窓会名簿が発行されます。
ご希望の方でまだ申し込みをされていない方は
フリーダイヤル0120-981-626 まで
その際、受付番号50805 と教えてください。

石神井 & 同窓会

NEWS&TOPICS

石神井高校のビックイベントのひとつである体育祭は、現在も脈々と続いています。しかし校舎の全面改築により仮設校舎工事が始まり、グラウンドが半分になってしまいました。しかし現役生の燃えるハートは連綿と続いているのではないのでしょうか。今年の体育祭のひとこまをご紹介します。



本年度の定期総会について

同窓会会長 林 弘

会員の皆様、元気にお過ごしですか。季節に相応しい天気が続かず、不安を感じるような事件が多い昨今ですが、まずは無事であることが何よりと思っております。

母校では、この四月の異動により、小林和夫校長、榎本善紀副校長が栄転されました。お一方には、本会運営に関し多大のご尽力を頂戴したことに對し、厚く御礼申しあげます。また後任の福本雄吉校長、長津美明副校



長には今後、ご厄介をかけることも多々あるうかと存じますので、よろしくお願ひ申し上げます。さて、母校校舎の

改築に関しましてはいよいよ現校舎の解体工事が始まり、多くの卒業生にとつて思い出し深い現校舎が、近く姿を消すこととなりまし

た。この校舎に特別な思い出を持つ卒業生も少なくないと思ひますので、同窓会としてやるべきではないかと検討した結果、「現校舎お別れ会」を開催し会員の皆様に、消えゆく校舎を懐かしんで頂くこととしました。

その方法については、会員の便宜を考慮して、定期総会の日に合わせて行うことが適当と判断し、総会終了後に恒例となつてゐる懇親会を兼ねることで実施したいと存じます。ただし、その時期は、規約上定期総会を年度終了後三ヶ月以内に開催すること決められておりますが、学校行事や改築工事などの関係で、施設の利用に制限があり、期限内の開催は不可能と判断されるに至りました。そこで異例の措置として、今年は七月二日に総会を開催し、終了後に「現校舎お別れ会」を行う

ことといたします。会員の皆様には、やむを得ない事情をご高察頂き、「ご理解賜りますようお願い申し上げます。

なお、この件につきましては、本誌に「定期総会開催のお知らせ」として掲出しておりますので、日頃は母校に足の遠い皆様にもぜひご来駕いただきたいと思つております。最後にになりましたが、わが国教育制度は種々の難問を抱えており、母校のような公立高校には、固有の諸問題が山積していることはご承知のとおりであります。このような局面で、同窓会としてできる範囲は限られておりますが、母校の永続的な発展を願ひ、少しでもこれに役立つ事業を実施していく所存です。会員各位におかれましては、本会に對し、従前にもましてご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

着任のごあいさつ

副校長 長津美明

同窓会会員の皆様、このたびご縁があり石神井高等学校に大泉学園高等学校より着任をいたしました副校長の長津です。前任校長は大泉北高等学校との統合によつて、この四月から新しく大泉校高等学校としてスタートをいたしました。このように都立高校は現在急ピッチで改革が進んでいます。石神井高等学校は、昭和十五年四月、府立十四中として開校し、六十五年間の伝統を築いてまいりました。各界で活躍の同窓生はすでに二万人を超え、その伝統の重みに身の引き締まる思いです。この伝統を大切にするとともに、石神井高等学校も時代に取残り残されないように、改革に取り組み必要に迫られています。

すでにご承知のように校舎の全面改築の工事が始まりました。都財政の大変厳しい中で今後三年間にわたる大工事となります。これは東京都が石神井高等学校に大きな期待をかけている証左です。この期待に応えるべく新生の石神井高等学校をさらに充実発展させるために、全力を尽くす所存です。同窓会会員の皆様、どうぞご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

「ごあいさつ」

同窓会名誉会長 本校校長 福本雄吉

同窓会会員の皆様方には、平素から母校の教育活動にご理解とご支援を賜りまして誠にありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。

この四月に着任いたしました校長の福本でございます。町田市にある小川高校、板橋区にある北園高校、そして石神井高校と校長として三校目になります。学校は、それぞれに伝統や校風や地域性も違い、特色や課題も異



なりますので、心機一転、新たな気持ちで生徒への教育活動の充実を目指し、石神井高校のますます

の発展のために尽力して参りたいと存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

「目指す学校像」

本校の目指す教育は、生徒の生得の才能を伸ばし、人間としての誇りを持つ人物、積極的に社会の進歩に寄与する人物の育成であり、高い学力のみならず、知・徳・体のバランスの取れた良識のあるリーダーの育成です。

開設以来、国公立大学、難関私立大学等への高い進学実績をあげ、社会で活躍する人材を多く輩出してまいりましたし、部活動や学校行事の盛んな学校として定着して来たところで、本校に入学してくる生徒及び保護者の期待するものは時代は変わり生徒も変わり、進学実績も変化しましたが、今までの実績をもとに学力の伸長をさらに図り、希望進路の実現ができる学校であり、部活動や学校行事に積極的に参加し、自己実現のできる学校です。

この期待に応えるべく、目指す学校像を次のように描き、教職員一同、日々の教育活動に精力的に取り組んでいるところです。

一、生徒ができなかったことができるようになる「充実感、達成感を感じ、学ぶ意欲を高める授業を創意工夫し、実践を目指す学校

二、生徒一人一人の個性・能力を伸ばさせ、それぞれの希望進路の実現を目指し、将来の職業選択を実現していけるよう丁寧な指導を行う学校

三、自ら考え判断し行動する生徒を育む学校として、生徒が自主的に学習に取り組むとともに、体育祭・文化祭等の学校行事や委員会活動を主体的に運営し、学校生活における文武両道を推奨する学校

四、規律ある自由のもと、生徒の自主性・主体性を育て、生徒が明るく伸び伸びと活

動する学校
五、近隣の学校や地域住民、保護者や同窓会等から信頼される開かれた学校

「待望の校舎改築」

一年遅れとなりましたが、今年度から校舎改築工事が始まりました。グラウンドや体育館の改修まで入れると三年ほどかかりますが、新生石神井高校の姿が待ち遠しく思われます。ご期待ください。

定期総会開催のお知らせ

同窓会規約第18条にもとづき平成17年度定期総会を下記により開催しますので、ご参加ください。

平成17年6月1日 同窓会会長 林 弘

記

- 日時 平成17年7月2日(土) 午後1:00より
 場所 母校会議室
 議題 第一号議案 平成16年度事業報告
 第二号議案 同上の収支決算報告及び会計監査報告
 第三号議案 役員改選議案
 第四号議案 平成17年度事業計画案
 第五号議案 同上の収支予算案

第一号議案 平成16年度事業報告

平成16(2004)年度平成16年4月1日～平成17年3月31日
 <平成16(2004)年>

- 4月 7日(水) 母校入学式に会長が来賓として臨席した。
 4月 25日(土) 役員会開催(議事 会計報告と次年度予算案
 総会の役割分担 黒菱山荘基金)
 5月 1日(土) 同窓会会報誌「きずな」第53号を発刊し会員
 に送付した。
 6月26日(土) 平成16年度定期総会及び三浦雄一郎氏を迎え
 て講演会を開催。母校の恩師を招いての懇親
 会を開催。定期総会議事はすべて原案どおり
 可決承認された(議案は「きずな」に掲載)。
 10月7日(土) 第12回東京校歌祭(日比谷公会堂)に吹奏楽部
 有志を交えて参加した。

<平成17(2005)年>

3月 母校卒業式に会長が来賓として臨席し祝辞を述べた。

第二号議案 下記

第三号議案 役員改選議案

・役員候補者

- 会長 林 弘(中2)
 副会長 総会担当 城 和弘(高12)
 副会長 行事担当 高橋一夫(高20)
 副会長 企画担当 勝見鈴代(高20)
 副会長 広報担当 板谷方彦(高27)
 副会長 山荘長 浦川伸一(高32)
 書記 佐伯博敏(中2)
 書記 榛葉祥子(高7)
 幹事長 大久保利一(高17)
 副幹事長 成富嶺男(高6)
 副幹事長 石川和寿(高9)
 会計 川口 弘(高4)
 会計 森 雅夫(高8)
 会計 道家正昭(高21)
 会計監査 佐藤 健(高3)
 会計監査 鶴飼明弘(高18)

第四号議案 平成17年度事業計画案

例年どおり次の事業を実施する。
 会報誌「きずな」第54号を発刊。
 インターネットに「石神井高校同窓会ホームページ」の運
 営。
 総会終了後の懇親会。「校舎のお別れ会」を行う。
 第13回「東京校歌祭」に参加。会員各位の多数参加を
 期待。(本誌13ページ参照)

第五号議案 下記

平成16年度(2004年度)決算報告書

(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

収入の部	平成15年度		平成16年度		対予算	対前年度		備考
	実績	予算	実績	予算		実績	対前年度	
繰越金	284,162	662,292	662,292	662,292	0	398,130		
入会費	1,279,379	1,300,000	1,304,642	1,300,000	▲4,358	▲44,729	1999年3月卒業生入会費287名計89000円	
年会費	6,089,379	4,000,000	3,924,035	3,900,000	▲24,035	▲171,270	新年度会費291名計117000円	
雑収入	274,385	100,000	282,713	282,713	82,713	408,328	運営委員会より40万円贈与入金	
合計	8,927,305	6,062,292	6,273,682	6,145,005	128,677	690,469		

支出の部	平成15年度		平成16年度		対予算	対前年度		備考
	実績	予算	実績	予算		実績	対前年度	
総会費	329,998	900,000	1,089,392	1,000,000	129,392	509,999	講演料5回総会費	
本部費	208,072	200,000	1,991,905	1,900,000	▲91,905	▲9,248		
広報費	3,655,515	1,650,000	1,646,335	1,650,000	▲3,665	▲2,993	きずな53号印刷費&7月号特刊費	
発送費	3,972,452	2,000,000	1,772,514	1,700,000	▲72,514	▲248,496	同誌印刷費 郵送料(2222部)	
行事費	219,519	200,000	223,290	200,000	▲23,290	▲12,799	総会参加費等	
山荘費	900,000	900,000	900,000	900,000	0	0	1999年度山荘運営補助金	
新会員	111,729	120,000	124,000	120,000	▲4,000	2,940	新卒業生入会費11	
事務補助	300,000	150,000	189,000	189,000	0	80,000	1999年度分校外運動部活動費	
予備費	0	900,000	0	900,000	▲900,000	0		
合計	9,415,375	6,960,000	7,431,841	7,250,000	▲183,159	398,362		

平成17年度(2005年度)予算案

(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

収入の部	平成16年度		平成17年度		実績との差
	実績	予算案	実績	予算案	
繰越金	662,292	662,815	662,292	662,815	▲523
入会費	1,304,642	1,375,000	1,304,642	1,375,000	▲70,358
年会費	3,924,035	3,900,000	3,924,035	3,900,000	▲24,035
雑収入	282,713	100,000	282,713	100,000	▲182,713
合計	6,273,682	6,037,815	6,273,682	6,037,815	▲235,867

支出の部	平成16年度		平成17年度		実績との差
	実績	予算案	実績	予算案	
総会費	1,089,392	900,000	1,089,392	900,000	▲189,392
本部費	1,991,905	210,000	1,991,905	210,000	▲1,781,905
広報費	1,646,335	1,650,000	1,646,335	1,650,000	▲3,665
発送費	1,772,514	1,700,000	1,772,514	1,700,000	▲72,514
行事費	223,290	200,000	223,290	200,000	▲23,290
山荘費	900,000	900,000	900,000	900,000	0
新会員	124,000	120,000	124,000	120,000	▲4,000
事務補助	189,000	0	189,000	0	▲189,000
予備費	0	900,000	0	900,000	▲900,000
合計	7,431,841	6,220,000	7,431,841	6,220,000	▲1,211,841

※、平成16年度会計収支を決算して閉会いたします。
 会長 鶴飼明弘 副会長 川口 弘
 ※会計収支実数を記載した結果、過正であることを認めます。
 会計監査 川口 弘 森 雅夫

平成16年(2004)年度 運営基金 会計報告書

前期繰越金	15,438,058 円
収入計	535,142 円
(内部)	黒菱山荘改修立寄金 第2回返済金 300,000 円
	預金利息 2,445 円
	長期預り金の繰上り入れ 232,697 円
支出計	400,472 円
(内部)	総会時特別運営基金等 400,472 円
当期繰越金	15,572,728 円

黒菱山荘建修にかかわる運営基金からの立替金額は平成15年3月末時点
 1,343,602円で、平成15年度以降5年間で返済を受ける予定(主に山荘基金より)
 平成17年3月31日現在の立替金残高は743,802円

平成16年(2004年)度 黒菱山荘会計報告書

収入の部	金額	備考
同窓会よりの助成金	500,000	平成16年度分
PTAよりの校外施設費補助	0	本年度中止
黒菱山荘利用料	463,200	宿泊運搬247日分
雑収入	18	利息収入
合計	963,218	

支出の部	金額	備考
交通費	75,000	乗車券、特急券、高速道路料
通信費	39,716	電話代、郵便料
水道・光熱費	130,154	電気、水道、プロパン代
会議費	16,015	月例会議費、山京協議会懇親会費
会費	5,000	山京協議会年会費
修繕費	5,974	設備関係修繕費
備品費	11,187	什器備品、備、塗代
雑費	150,000	財)八方博覧会
雑費	163,488	山荘管理費、保険料、ゴミ処理代他
合計	586,535	

次期繰越金	376,683
繰越金繰立分 残高	1,186,556

二〇〇五年度

「同窓会名簿」の発行に際して

副会長(広報担当)板谷方彦

昨年より皆様のお手元に、「同窓会名簿」発行の調査票としてダイレクトメールのような体裁の郵便物が届き、びっくりされた方も多かったと思います。そのために、同窓会への問い合わせも多数にのびりました。

同窓会では、五年ごとに「会員名簿」を作成することにしており、前の「名簿」が二〇〇〇年度に発行されたことから、本年が発行の年にあたるため、二〇〇五年度の「名簿」を作成しようとしております。

誤解を招いた原因は、「名簿」の編集作業を同窓会役員が直接行うのではなく、業者(株式会社サラト)に委託したことでした。また、

多数の郵便物が一時に学校事務室に殺到してしまうのを避ける必要から、調査票の返送先も石神井高校ではなく株式会社サラトになっていたことも、疑念を抱かせる要因になったと思われる。

実際、二万人を超える会員の「名簿」を整備することは、同窓会役員には不可能で、本誌『きずな』の発送も一〇年以上前から、外部へ委託しております。この委託先が株式会社サラトで、この種のビジネスの草分け的存在で全国で千八百近い学校の同窓会名簿管理を行っております。近くでは、お隣の井草高校なども同社へ名簿管理を委託していることとです。

一方、同窓会の代行業務として名簿作成などを行う会社の他に、勝手に同窓会名簿を作成して会員に売りつける業者が、前回の名簿発行時には実際に出現しました。また世の中には、若名録や紳士録と称して掲載料を請求したり、ひどい場合は掲載削除の手数料を要求したりと、古典的な裏ビジネスが存在しているのも事実です。特に昨今は「振り込め詐欺」などの新しい手口の詐欺が横行し、名前や住所などを公開することを躊躇せざるを得ない風潮にもなっており、名簿作成業者と聞くと、多くの方が身構えてしまうのも確かです。

しかし、同窓会の存立基盤のなかでもっとも大切なことは、やはり会員に直接連絡ができる「名簿」をきちんと整備することであるのも事実です。

これまで、五年サイクルで改訂する「名簿」の販売や広告収益を大きなバスター益として、「名簿」の管理を外部業者に委託し、そのために少ない役員やコストでもなんとか広報誌の発行や懇親会などの運営を行うことができました。しかし個人情報保護法が施行され、これまで通りの形態での「名簿」発行の是非が問われるようになってくる今、従来通りの名簿業者のビジネススタイルが成り立つか大きな岐路に立たされているように思われます。

二十一世紀となっても、同窓会の役割は会員相互の連絡をバックアップし、親睦を深めることが第一であると思います。このために「会員名簿」自体は欠かすことのできないアイテムではありますが、一冊の「会員名簿」として発行する場合、その形態は大きく変わるかも知れません。今回の「名簿」は、従来の形態を引き継ぐ形に新たに電子メールアドレスの欄を設けましたが、若い会員が増えてくると、住所や電話番号を公開する必要があるのかどうか、「名簿」の求められる姿が変化していく可能性を否定できないでしょう。

今回の「名簿」発行に際しては、実に多くのご意見やご不満が寄せられました。相反するご意見・ご忠告も多く、私どもとしては

多数のご意見を十分に調整・反映することは時間的にも不可能だったと言わざるを得ません。が、やがて五年後の次回「名簿」発行に際しては、個人名簿の取り扱いについて、個人情報保護法が施行されて間がたち、何らかのガイドラインもできていると思われる。その中で、同窓会の中に「名簿発行委員会」なりを設置して、会員の方々のご意見を集め、取りまとめる必要があるのではないのでしょうか。

今回の「名簿」は、このような時代の境目で発行される運びとなりましたが、将来の「名簿」発行については、次世代の同窓会の方を含めて、会員の皆様のご意見やご希望を調整する時間を充分に取りながら、編集していくことが欠かせないと考えます。

黒菱山荘基金からのご報告

城 和裕(高校12回・同窓会副会長)

今年は黒菱山荘を訪ねる同窓生も少しずつ増え、皆さんからも利用後の嬉しい感想も『きずな』に寄せられています。また基金の中には黒菱山荘をご存知ない世代の中学、高校の60~70代の先輩からのお振込みや恩師の先生方から大口の入金がありましたことを、ここでありがたく感謝してご報告させていただきます。

詳しくは石神井ホームページの黒菱基金の明細をご覧ください。(http://www.shakujii-club.gr.jp/bokin.htm)

なお、今年の資金移動は所定の手続きを経て、平成17年2月1日付で金30万円を同窓会運営基金会計へ立替金第2回分返済金として振込入金いたしました事をご報告いたします。その結果、2月2日現在の黒菱山荘基金の口座残高は金65,732円となっております。

今後も皆様からの暖かいご声援とお振込をいただければ、ますます都立高校としての稀有なこの施設を維持管理することが出来、後輩達の『心の道場』として残してやれる事でしょう。他校の先生や生徒さんが羨むこの施設を、ますますご活用いただきますように、かつ今後とも、よろしくご支援下さい。

* 黒菱山荘基金の郵便振替口座は下記の通りです。

名称「黒菱山荘基金」00150-3-129748

お便り



お寄せいただいた原稿を中心に構成しています。

愛・地球博開幕

(財)二〇〇五年日本国際博覧会協会

森 茂樹(高校十七回)

二十一世紀最初の国際博覧会となる愛知万博(愛・地球博)が三月二十五日に開幕しました。私は平成十七年二月から名古屋の博覧会協会に派遣され、主に会場演出関連を担当して開幕までの業務に携わって来ました。

そこで職員の間から、「この愛知万博のコンセプト、見所をお伝えしたい」と思います。初期の万博は、名前の通り「万国物産展示博」的な性格を持っていましたが、その後は未来を見据えた「未来博」に内容が変わり、前回のハノーバー博まで続いて来ました。

さて、二十一世紀最初の愛知万博は、この流れと一線を画し、未来を見据えるのと同時に、「以前あった知恵を見直し将来に生かす



ことが出来ないか、自然が昔から保有していた人に役立つ力を再活用できないか」といったいわば「振り返ってみる万博」を目指し、テーマは「自然の叡智」としています。そして自然の叡智を見直し、活用することで危機的状況にある地球のこれ以上の悪化を食い止め、現在の状態を持続的に守り抜こうとの思いから、この万博は「愛・地球博」と名付けられています。

このコンセプトを具現化するために、会場内のいたる所で地球に優しい施しがなされています。このあたりを実際に見、体験することがこの万博の見所のひとつと言えます。

廃棄物ゼロを目指したパビリオン

万博と言えば独自の海外パビリオン建築がありますが、「愛・地球博」では従来のパビリオンの姿は全くありません。ユニット構造の鉄鋼と間伐材を主に使用したモジュール型組み立て式施設になっているのです。

これにより閉会後は解体して、発展途上の学校、病院などに移築再利用される計画で廃棄物ゼロを目指しています。また会場が自然に恵まれた丘陵地にありますので、高低差をなくし段差を解消するため、自然を保護する目的で万博史上初めての試みである空中回廊(ループ)を作り上げています。

このループは全長二・六キロで、一周するのに四十分行かかります。これも間伐材、再生木材と鉄骨だけで作られ、閉会後はリサイクルされます。

ほとんどの建築物、休憩所、ベンチなどが再生材、間伐材で作られているばかりではなく、案内板などもトウモロコシから作られた生分解性樹脂で製作されています。

舗装も透水性、あるいは保水性アスファルトや竹、木材の端材を粉碎して固めた木チップを利用する等、徹底して地球に優しいもの

を追求しています。

夜間は照明が薄暗く、暗いと感じる方もいるかと思いますが、照明にもこだわり、あえて無駄なエネルギーを使用しないよう、ソーラー、風力電池を活用、消費電力の少ないLED(発光ダイオード)照明などを使用し、ここでも徹底して環境負荷を抑えています。そのおかげで星空やお月様の美しさを十分に楽しむことができそうです。

ほかにも環境に配慮した設備が随所に見られますが、その中には世界で初めての技術、挑戦もあり、裏話ですが見事失敗した無謀な挑戦もありました。

私の役割と担当業務

私の役割は会場内の主に屋外における演出計画を各部門、外部見識者と調整する総合的なまとめ役でした。演出計画の内容は広範囲に及び、主なものを以下に列記してみます。

- 一 専門用語で「ランドスケープ」と言われている、会場内の緑化修景計画、花壇、植樹、造園など
 - 二 演出照明計画
 - 三 賑わい感を演出する オブジェなどの計画
 - 四 サイン計画
 - 五 休憩所、ベンチ計画
 - 六 暑さ対策、日陰計画
 - 七 アートプログラム計画(会場内の彫刻、モニュメント、オブジェなどの計画)
 - 八 国内、海外各パビリオンのデザイン監修業務
 - 九 デザインコンペの手配 審査
 - 十 会場内のデザイン監理
- 右記の内容をそれぞれの専門プロデューサー、ディレクターの方々から協力と指導を受けながら、一緒になって企画、計画、設計、

実施を取りまとめました。

民間では、このようなプロジェクトであれば半年でまとめねばならない計画も、国家プロジェクトとなると、手間と調整と時間がかかり、そのうえ工事は煩雑な手続きが必要な入札が大原則であり、予算には官庁独特の難解な予算要求手続きを強いられ、今まで経験してきた取組み方との違いに大いに戸惑った毎日でした。

閉幕九月二十五日まで、官庁用語で言うところの「保全業務」が待っています。博覧会を現状のまま、ソフト、ハード共に維持して行くことが次の最大の使命となります。設営された演出物が強風、豪雨、台風、熱射に耐え抜いて行かねばならず、気の抜けない毎日が続きます。

(武蔵野美大卒、東京マックス、丹青社、丹青社から博覧会協会に派遣在籍、現在に至る)



4月7日に開催した第12回 石神井13回生ゴルフコンペの写真(写真提供 野中雄介さん)

アフガニスタンで恐い思いをしました

杉本幹男（高校十四回）

日本はアフガニスタンにおける武装解除事業への最大の資金供与国で、外務省はその事業への名目的イニシアチブ保持のため、IOG（国際監視団）という組織を実質的にコントロールしており、その運営はNGOとしてのJMAS（日本地雷処理を支援する会）に丸投げされています。私はJMAS会員ではありませんが、七月二十六日から十月二十五日までの三ヶ月間、同会との契約でボランティアとして参加し、アフガニスタンでの国連による旧武装勢力の武装解除過程の公平性・平等性を国際的組織で監視するという任務を担って同国に行っていました。いろいろ話題はありますが、今回は恐い目にあつたことをご紹介します。



某旅団長から感謝のザク口を贈られている杉本氏

この始まりは六月初め、所用で市ヶ谷会館に行きOBルームに向かつていた時のこと。偶然、陸上自衛隊の先輩土井義尚氏に出会い、ちよつど良い。アフガニスタンに行くと突然の「命令」をいただきました。「承知の方も多いことと思いますが、土井氏はJMASの理事長です。同会のカンボジアでの活動について聞いていました。アフガニスタンとは、また何だろ」と好奇心を持って、心を持ったのが運のツキでした。当初はカブールと周辺に所在す

る部隊でのDDR（武装解除 動員解除、社会復帰）活動監視と情報収集・連絡や武器集積場での業務をしていました。そして九月九日、同国西部のヘラート市へ派遣されることになり進出。ヘラート市は同名の州の州都で、イランと接するこの州は両国貿易の要としてアフガニスタンでも最も裕福な所です。翌十日はUNAMA（国連アフガニスタン支援事務所）を訪ね情報収集。相変わらず現地知事の協力は得られないものの、少なくとも市内の情勢は安定している様子でした。ところが、十一日、カルザイ大統領が現地のイスマイル・カーン州知事を更迭し、解任に抗議するデモがあるので、国連職員と外国人は宿舎に留まるといふのです。十二日は午前中デモがあるが、昼には収まるとのこと。国連関係者は相次いで出て行きました。残っている外国人はグローバルという英国の警備組織の二人で、一緒に十時頃から門の外を行くデモ隊の様子を窺っていました。すると子供達の小集団から十一時頃には大人集団となり規模も拡大。十一時三〇分、門とは反対の東の方向で銃声、やがて数百メートル先で黒煙と爆発音。しばらくして米軍のブラック・ホーク二機が黒煙の周辺を周回飛行。

散発的な銃声や一斉射撃。（私たち三人は、この時点で、やがて事態は収まるものと観測。実際、十三時頃には銃声も下火になりデモも来ない様子。十三時三〇分、再び



暴徒に襲われた国連宿舎中庭

国連事務所付近から新たな黒煙、爆発音、銃声（一部は宿舎に接近している模様。その頃から宿舎の現地人職員退去、ついには警備担当者二人となる）。十四時三〇分頃、銃声のべつまくなし。東堀のすぐ近くでも小銃音。十五時、地下壕入りの準備。十五時三〇分、「もう、もたないな」と思った瞬間、三十メートルほど先の鉄門が押し破られ、石や棍棒を持った男たちが走り込む。私たち三人は地下の退避壕に逃げ込み扉を閉める。共に閉じ込められたジョン元英国陸軍大尉とケン元南ア軍大尉が後で言ったのは「あの時、ミキオは次のオリンピックに日本の百メートル選手で出られるくらい速く走ったな」といふもの。すぐに追いついた侵入暴徒達は扉を叩き、壕の天井上の部屋の床を剥がし穴を穿とうとする。午前後半に発電機が止められていたため壕内は真っ暗。二十七平方メートルほどの狭い退避壕には消費期限切れ食糧、使えそつもない無線機、ろつそくとマッチがある。他は水すらない状態。幸い、数十人と思しい暴徒は銃もRPG（対戦車ロケット砲）も持たない素人集団だったようで、ジョン氏の携帯による緊急連絡のおかげで、五十分後にアメリカ軍一個分隊強が高機動車三両と国連車五台で駆け付け、退避壕はもくれました。壕外は屋内も庭も壊れた家具や建物の破片で足の踏み場もない状態。高機動車に分乗し、約二百メートルで大通りに出ると、バリケードを築いて新国防軍が数十人警戒中。新国防軍の基本編成は七百人の大隊ですので、国連事務所からここまで約二百人の一個中隊が展開しているものと推測しました。国連前を通ると、焼き討ちは完璧で見る影もありません。十七時、米軍の拠点から即座にUH-60ブラック・ホークにてヘラート空港へ。そこには既に国連職員が三十人ほどいましたが、怪我人はないようでした。結局、一晚空港待合室の外で

仮眠し翌日昼過ぎに国連機でカブールに戻りました。大がかりな破壊ながら公表された死者は現地人七名でした。私の印象ではもっと多いのではないかと思います。

アフガニスタンでの三ヶ月間、おつかないびつくりでしたが、何とか無事生き延びました。いろいろ幸運もあり、すり抜けたところですが、体もいたって健康で、日本人のほとんどにみられる下痢にもならず、風土病にも罹らず、現地では歴史的な大統領選挙も間近で見、国連の実態も認識できた大変ありがたい貴重な体験をさせていただきました。また機会があれば、ご紹介したいと思います。



回収された武器の集積所

「きずな」編集部では「きずな」へのお便り・原稿のご送付をお待ちしております。お問い合わせは、石神井クラブ（電話／Fax03-3319-1122）または email: amjack@shakuji-club.gr.jp

十三回生の唐松岳登山

野中雄介（高校十三回）

十三回生有志 十二人が還暦を迎えた年に富士山登山を敢行しましたが、以来、山にとりつかれた面々が昨年九月に唐松岳登山に挑戦しました。

十六回生の石田さんが経営するペンション「スカラ」に一泊し、黒菱山荘にも表敬訪問を果たし、母校の山小屋の雄姿にしばしうっとりしたものです。

翌日は晴天の八方尾根を快適に登り唐松岳頂上を踏破。唐松岳山荘に投宿して、夕暮れの北アルプスの山々を飽かず眺めて至福の時を過ごしました。

三日目も晴天に恵まれ、八方池では逆さ白馬三山の眺望を楽しむこともでき、感激の唐松登山を果たしました。

メンバー／関根満範、丹治保雄、野中雄介、淵上憲英、森 義信、松浦弘晃、加藤昭子（小倉）、浦上光子（小島）、中村静子（栗原）、竹内道子



指折りをしたメンバーもいましたので作品を紹介します。

浦上光子さんの作品

- 「青き嶺友あらばこそ越え行かん」
- 「八方の湖面逆さに青き嶺」
- 「雲の峰あの若き日の自信欲し」
- 「山霧や魁夷の絵画目の当たり」
- 「大夕焼け一期一会に合掌す」
- 「こ来光拝みて足の軽きこと」
- 「青春を晩夏の山に観てきたり」
- 「またひとつ頂上きわめ夏終わる」

中村静子さんの作品

- 「連山の雄姿呑みぬ夏の雪」
- 「雪溪の白馬逆さに山湖かな」
- 「絶景の白馬三山秋澄めり」
- 「雲海にうきし連山雄しかり」

『エスキモーになった日本人』

大島育雄さんに会った！

勝見鈴代（旧姓別所）（高校二十回）

何年くらい前だろう…、テレビで『エスキモーになった日本人』という番組を見たことがありました。まさに自然との戦いの中で生き生きと逞しく生きている日本人の話でした。その大島育雄さんの姿は、印象的で、なぜかいつまでも心に残っていたのです。

その大島さんが石神井高校の十八回生！びっくりすると同時に私は、大島さんのことを『きずな』で紹介させていただきたいと思いました。

まさか、グリーンランドでの取材は無理だろうけれど、是非お話を伺いたい。そしてエスキモーになった経緯や、今の生活ぶり、日本への想いなどを聞かせていただきたい！私の心ははまりました。

「その大島さんが日本に帰国している！」十八回生の同窓会幹事・鶴飼さんからの情報です。

そして、同期が集まって、大島さんを囲む会がある…私はその会に出席させていただくことにしたのです。

二〇〇四年十一月二十七日の夜、念願の大島育雄さんに会うことができました。

真黒に日焼けした顔、綺麗な澄んだ瞳、そしてグロップのように大きくて分厚い手、笑顔には、暖かな人柄が表れていました。

大島さんがグリーンランドのシオラパルクに住みついて三十年、エスキモーの奥様との間に四人のお子さん、職業は猟師…。極北の生活では、いやおうなく猟場に駆り立てられ、気がついたら猟師になっていたといま

す。日大の山岳部で活動していた大島さんですが、卒業のころから一度は海外の山に登ってみたいと思うようになり、先輩達から資料を見せてもらったり、話を聞いているうちに、興味が極方に向いていた、といえます。そして目標はグリーンランドの北西に隣接しているエルズミア島の最高峰にしばられていました。しかしいきなり登るのは無理、一年間の滞在の目処をつけ、気象状況や極北の環境を体験しつつ調査しようとの計画だったといえます。



ちよつど時を同じくして、北極に目を向けていたあの冒険家植村直己氏が犬ソリの訓練のためにグリーンランドのシオラパルク滞在中であり、大島氏と合流することになりました。語学は大の苦手という大島さん、高校時代には最初からあきらめて白紙で提出、職員室に座らされたこともあったとか…、しかし、興味のあることに関してなら話は別で、辞書を片手に資料を調べたとのこと。現地では、辞書は一応用意していったものの、日本語から英語、英語からデンマーク語、デンマーク語からエスキモー語と訳していくうちに意味が違ってしまったため、辞書はやめることに…、むしろ小屋に遊びにくる子供や若者たちがいい先生になったといえます。

生活は、植村氏が借りていた小屋で始まります。初めてシオラパルクに到着した日、村人の誕生日祝いの家へ行った大島さん、そこでは三歳になったアトル君の誕生日祝いが開かれていました。そこでキバヤという料理の洗礼を受けたのです。料理といってもそれは、ツバメとハトの中間くらいの小鳥の死骸そのもの！エスキモーの村で生活するのだからと多少の覚悟はしていたものの、この関門は厳しすぎる、もう開き直るしかない…、植村氏の食べ方を見よう見まねで、かぶりついた。胃袋はすでに受け入れを拒否、味わっているどころではない。涙が出そうだ、何とか食べたい、胃袋との戦いであつたそうです。しかし、二度、三度食べていくうちに、植村氏の言ったとおり大好物となつたとか。

一年後帰国したものの、エスキモーの生活に強くひきつけられていました。帰国して、各方面への報告を終えたころ、日本テレビのドキュメント企画の話があり、取材アシスタントとして、再びシオラパルクに戻ることにになりました。たった三ヶ月離れていただけに、懐かしさがこみあげてきたそうです。そこで大島さんは取材班が帰国してからも当

分ここで暮らし、自分の好きなことをとことんやってみよう、決心したといひます。

そして以前から、気になっていたアンナという娘さんと結婚することになります。シオラバルクの村人たちは、日本人の婿が来てくれた」と、大喜びだったと話してくださいました。

今思つことをつかがってみました。「日本はやはり遠いといふことですね。郷愁に襲われることがないといつたらうそになります。ウサギ狩りで裏山の斜面を歩いているときなど、ふいと学生時代の山行が思い出され、日本へ帰ったら一日のんびりと日本の山を歩いてみたいなどと思つこともありますよ。でも正直、エスキモー 猟師は毎日忙しく、感傷にふけていて暇はないんです。シオラバルクに暮らしていると、人間が自然の中の一員であるといふよりも、むしろ、ちっぽけな一点の命に過ぎないと感じます。でも、その一点にも五分の命があることを、何かに向かつて言っておきたい思ひです」

お話は、まだまだ沢山ありますが、そのあたりのことを大島さんがつづつた書籍「エスキモー」になった日本人が文芸春秋社から発行されています。ぜひ読んでみて下さい。今、日本に求められている、大切な心がいつぱい詰まった本で、心が洗われる思ひです。

大島さんと今度会えるのは、いつなのでしょう。高校時代の仲間と楽しく呑み、語り合つた「大島さんを囲む会」に同席し、温かいひとときを共有させていただきました。

パラオ思考

城 和裕(高校十二回)

「パラオって何処?。飛行機で何時間?」ってよく聞かれます。東経一三五度、北緯三度から七度、二百以上の島々からなる南海の楽園です。そう神戸の真南、したがって時差は

ありません。最近ではJALの直行便が成田からたった四時間。

ダイビング好きのメッカで、魚影の濃い海は穏やかな鏡のような海面で、緑のマッシュルームのようなロックアイランドを快速クルーザーに乗って巡る気分は正に王者の癒しがあります。

二十年以上前に縁があつて、青島「パラオ」店を開設、十五年ほど営業しましたが今は会社だけが残つており店はありません。そんな訳で、今でもコロール空港に着くと「お帰りなさい」と言われてしまいます。東京の店でも現在百名近くの「青島パラオ会」のメンバーがあり、毎年欠かさず三月頃現地へ参ります。

今年には三十六名の参加があり、なんと中には二十回以上参加の方も多数います。

参加年齢は三十八歳までの男女、中には泳ぎの不得意な方もおられますが問題はなく、二人乗りのカヤックで海のジャングルを通過して静寂の中、鳥や亀や魚やクラゲ達を大型ボートの入れない塩水湖に忍び込んで追っかける体験は口では表せません。ダイビングの好きな方は別行動しますが夜の宴会ではその日の体験発表で盛り上がりです。だいたい五泊六日の旅程ですが帰国の日がくると、あと三日伸ばしたい」と言つのが常です。特にナイトツアーでの船上での貸切パーティでは、夕方出航して真っ赤な夕日の海に沈むのを見てから、別の大型三胴船のヨットに移つて食事の後、歌つたり踊つたり、後は消灯して満天の天の川を満喫します。成田では知らない者同士が、なんと帰国する時には親戚以上になるので。東先生ご夫妻も二度ほど参加なさつて大変喜んで下さいました。パラオ会のメンバーでは大人数で私の恩師なのに勝手にお付き合ひをしてくれず。メンバーは多士済々、気取りのない人達ばかりで幸せです。

そろそろ地震がなくて、台風がなくて、もちろん最近あつた津波も関係ありません。海面が少々上がったも消えるような島ではありません。

戦前は日本人が三万人もいた主要都市で南洋庁があつて南洋神社もありました。戦艦武蔵が停泊して島より大きいと現地の人達を驚かせました。大戦がなければ本天に天国に近い島と言えるでしょう。お問い合わせは〇九〇・二八〇五・二六三三、城の携帯にどうぞ。

黒菱山荘と「七人の侍」

真家俊雄(高校一回)

昨年八月五日、東京から一回生(七十四歳)七人が分乗した一台のクルマが大系線沿いの国道を北上し、白馬の町からつづら折れの林道を一気に走り登つて石神井高校黒菱山荘に着いたのは夕刻でした。

あいにく雲がかかつて白馬の山々が見えなかつたためか千五百メートルの高地に登つた感じはありませんでした。

山荘の周囲には夏草が生い茂つて目に付く看板も立て札のなかつたので、それが石神井高の山荘であることがはじめは判りませんでした。鮮やかなイエロー(マナスルカラー)の屋根がひととき目立ち、なかなかのデザインです。炊事道具が整つていてと聞き、私達は食材をクルマに積んで山荘に二泊の予定でやって来たのです。

級友達と自炊をするのは、あの戦争最中の野外軍事教練以来六十年ぶりのこと、あの御殿場の日の丸兵舎を思い出して、まさに昭和一桁石神井中学校報国隊生き残り老兵たちの晩餐会が始まりました。

思えば激しい空爆に曝された学徒動員、疎開者との離別、敗戦前後の混沌、戦後の新学制移行など、石神井時代に全てを経験した少年達の、半世紀を超えた友情の絆でもありま

した。

私達は大学から様々の分野に分かれましたが、それぞれに戦後の復興と再建を担い国際競争にも勝ち抜いて高度成長時代の企業戦士として頑張つた世代です。

しかし今は第一線を退いて古希も過ぎ、それぞれが人並みに病氣も体験し克服しながら老後を過ごしています。

今回はその過程を一気に巻き戻し、母校の山荘で石神井時代にかえつて旧交を暖めることができました。

翌日、八方尾根を歩いて後輩達が築いた石神井ケルンに到達した感動も忘れられませんが、石神井健児「七人の侍」は、いまだ健在でした。山荘には風呂がないので夕方クルマで白馬の町に降り、ゆっくりと温泉に浸かり疲れを癒して再び山荘に戻り、あらためて祝杯を上げました。

「来てよかったな」「まだまだやれるぞ」七人の表情に、あの少年時代の志村・仲里・平出・真家・三木・村瀬・山下の童顔が重なりました。

三日目の朝は見事に霧が晴れ、山荘のペラングからは白馬三山の全景が展望され、大雪渓が眩しいほど光っていました。

母校の山荘を管理して下さる方々の陰のご苦労に心から感謝し、再会を期して白馬の山並みを背に帰路に着きました。



石神井クラブ「あおしま」での六月の昼食会で雑談中に黒菱山荘の話が出て、アツという間に実現した高齢ドライブ行でしたが、本当に楽しい旅行でした。

「追憶、吉田 寿先生」

佐藤 健（高校三回）

我々が数学の吉田寿先生に奉った仇名はライオン。類から類にかけての濃い髯から、この名となったのだが、怒ると「ウオッ」と吼えたからでもある。その名の通り恐い先生だった。

戦後の数年間は、戦時下の風潮が残っていて、出席簿で横つ面を張ったり、生徒に白墨を叩きつける先生もいたが、吉田先生の場合は竹刀である。教員室から竹刀で廊下の壁を叩きながらやって来る。ピシッ、ピシッという音。見張りの生徒が「先生来襲！」と叫ぶと、教室は緊張感につつまれ肅として声なし。宿題をやって来ない者は顔青ざめて先生のご到来を待った。

ある時、生徒一同で「竹刀で叩くのは、いくら何でもひど過ぎる」と言ったことがある。すると先生いわく「君たちは叩かれ方が下手だ。俺は竹刀を振り切っていない。当たる瞬間に止めているから、その時ちよっと頭を下げれば痛くない」。そして、「ニヤリと笑って付け加えた「これを愛の鞭という」。

先生の得意技は板書（黒板に字や図を書くこと）であった。先生は定規やコンパスを使わず、直線や円を素手でお書きになった。腕をぐるっと回して円を描き、そこに内接三角形を書き込むと見事な図形が出来上がる。ここで悪童どもが拍手すれば、「もー一つ書いてみようか」となるのであった。

先生はプロの教師としてのプライドをお持ちになっていた。我々にはよく分からなかったが、戦後派の若手教員との間に、何らかの確執があり、それに悩んでおられたような気がする。「黒板にロクな字も書けない教員がいる。これでは困るんだよね」とフト洩らした言葉を、今でも私は忘れられない。

三月、学年末最後の授業の時、先生は授業

の途中で話をお止めになって、じつと窓外を見ておられた。雨上がりの校庭は春の日を浴びて、のどかに陽光が立ち昇っていた。春になったなあ」と言って、先生は黒板に大きな文字で「Spring has come.」とお書きになった。その瞬間、教室全体にホッとした空気が広がった。皆が春の到来に気がついた。暖房もなく、破れた窓ガラスには板が貼ってあるという貧しい時代である。冬は凍える指先を我慢して授業が行われていた。その辛さから開放されたのであった。

今、この年（七十二歳）になって、「いい先生とはどういう先生なのか」と考える。記憶に残るような場面を残してくれた先生、それがいい先生ではないのか。生徒から「センコウ」と呼ばれるだけの先生は、吉田先生から最も遠い存在ではないかと思ってしまうのである。

夫婦で「恩師を囲む会」に

参加して

新井知恭・新井公子（高校十二回）

山荘前で皆様とお別れしてから、車を置いて黒菱リフトを乗り継いで第一ケルン、第二ケルン、八方池まですばらしい天候の中を歩いき、帰りも同じコースをリターンしました。晴天の下、雄大な周囲の景色を眺めながらの約三時間のトレッキングを楽しんで参りました。私もかなりあちこち行っていきますが、この白馬の夏は初めてで感動いたしました。スケールが違います。

こんなすばらしい自然の中の山荘なんてうらやましい限りです。皆さんがもっと価値を感じて大いに活用しないといけませんね。

普通の別荘やコテージ、保養施設等とは少し設立の主旨が違うようですが、今では作るうと思っても多分作れないのではないでしょう。

それと先人が四十年ほど大切に管理補修して、今でも立派に使用できるなんて、これは現地に行ってみたら分らないでしようね。テンプルに刻まれた思い出の詩や彫刻、永年の風雪にも耐えてしっかりと構築の速めにも目立つ黄色の屋根、あの山頂で電気、ガス、水道、下水設備完備とはびっくりいたします。

たまたま天候に恵まれた時に行ったので余計にそのように思ったのかも知れませんがうらやましい限りです。

皆様と楽しくひとときを過ごせましたこと、私の旅の中でもひとときをわすれられないものになりました。

城様には懸命にこの山荘を守らなければいけないと言いつ思いが伝わって来ましたが、これからは石神井高校の皆様がこの山の宝物を大切に守っていかれることを願っています。

今回は妻のアツシ君を務めて往復約五百五十キロ走りましたが、思い切ってお邪魔虫かと思いついて、本人も私も大変良かったと思います。

皆様には何かとご迷惑をおかけしたことで存じますが、気持ちのすばらしい方ばかりで、また恩師の小山先生、寺島先生お二人も高年齢ながら遠距離にもかかわらず現地までお出かけになり、皆さんと気さくに酒を酌み交わしていらつしゃって、これもなかなかできることではないのではと感心していました。

今時、友人関係も希薄になり恩師との交流も少なくなつて、それはそれで良いと言つ方も多いようですが、せっかくこのような方、このような設備、このような機会があるのですからOBの皆さんには大いに参加されたら良いのでは、と外部の人間としても感じました。

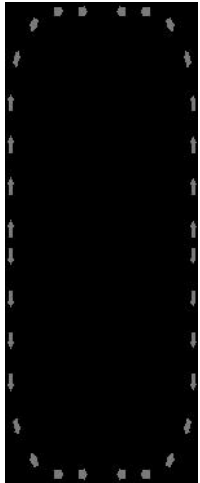
いろいろお世話になり有難うございました。城様や石神井高校の恩師、OBの皆様への限りないご発展を祈念して御礼とさせていただきます。（新井 知恭）

応援歌の楽譜

兵頭明彦（高校二十三回）

小生は、確か高校の「二十三回生」であったと記憶しております。ホームページのひとつとつを懐かしく見させていただき。また応援歌を聞いて感慨にふけりました。

応援歌については、少し思い出がありました。当時、応援歌の曲と詩を自作したのです。前年度に確か、赤団が曲と詩を自作しましたので、これに対抗して、鈴木利明氏（現在、地方公務員、確か警視庁捜査二課の警部さん）になられていると記憶しております（詩を自作し、小生（現在、会社員）が曲を作ったのです。出来上がったものは、当時の音楽の担当であられた、河西先生に見てもらい、おせじでしようが「きれいな曲になっているし、詩とも不自然でない」とのお言葉をいただいたことを思い出しました。そのときのガリ版（というのが昔はあったのですよ）刷りの楽譜と歌詩を見つけ出しましたので、お送りします。



エイト会の報告

代表幹事 山田康之(高校八回)

平成十六年十月十六日(土)、昭和三十一年卒業第八回生の同期会を、新宿三井ビル五十四階「三井クラブ」にて行いました。

今年台風の当たり年でしたが、幸い当日は好天に恵まれ、高層ビルから眺める新宿の夜景も素晴らしく、時の経つのも忘れるほど楽しいひと時を過ごすことができました。男性四十三名、女性十八名の参加者のうち、今回は初めて参加する者も多く、久しぶりに顔を合わせる仲間はいっつのまにか、四十八年前の顔に戻っていました。

手作りの「ダーツ」に打ち興じたり、「緑なすここよ武蔵野」の校歌を合唱したり、あちこちで談笑の輪が広がり、高校時代の三年間は今の自分の人生にとって大切な年月だったと、改めて思い起こさせてくれました。

六十名を超える参加者で、会場が手狭だったのを、船詰め状態になってしまい、記念の集合写真も二組に分けるほどでした。

古希に近い年齢になりますと、同期会の通知を差し上げるたびに、彼の世に



逝ってしまう仲間も、二人、三人と出てきて、また、病氣静養中の方も多くなり、年歳歳淋しくなってきました。また鬼籍に入られる恩師の報に接するたびに淋しさは増してきます。
次回も元気に健康でこのエイト会が迎えられよう願ってやみません。

高校 27 回 (昭和 50 年度卒業) 同期会

日時 平成 17 年 8 月 27 日 (土) 午後 4 時 00 分 ~ 午後 6 時 30 分
場所 アルカディア市ヶ谷(私学会館) 4 階 鳳凰の間
〒102 0073 東京都千代田区九段北 4 2 25 03-3261-9921
<http://www.arcadia-jp.org> 会費 8000 円

2 次会 同日午後 7 時 00 分から 2 時間程度
場所 ワイン&レストラン 葡萄の木
〒102 0076 東京都千代田区五番町 5 1 第 8 田中ビル B1
03-3262-9975 会費 2500 円

お問い合わせ先 小澤正史 (e-mail) na.ozawa@nifty.com
(勤務先住所) 〒105-0004 東京都港区新橋 3 丁目 8 番 8 号 リパティ 8 六階
勤務先電話・FAX 03-5425-6217 (小澤でお呼び出し下さい。)

高校 15 回 (昭和 38 年度卒業) 同期会

7 月 9 日 (土) 午後 5 時 ~ 7 時
新宿西口 / 京王プラザホテル
44 階 ハーモニーの間
1 次会費: 男性 12,000 円 女性 10,000 円
2 次会: じゃぼん(新宿ワシントンホテル B1)
(会費予定: 5,000 円)
幹事: 中田 048-472-1511
Email: nakada.s.h@tbi.t-com.ne.jp

高校 17 回 (昭和 40 年度卒業) 同期会

卒業 40 年の節目の年を記念して下記にて恒例の同期会を開催いたしますので前 3 回にご出席されなかった方々も今回は是非ご参加下さい。
連絡先の判明している方々には後日案内状を発送致しますが、それぞれ身近な友人に声をお掛け下さい。
開催日: 2005 年 11 月 19 日 (土)
午後 3 時より 3 時間程度
場所: 「あおしま」
東京都港区南青山 1 - 2 - 3、青山ビル地下 1 階
03 - 3403 - 3461
同期会幹事代表: 上野俊彦

石神井高校 OB 会中野

会員などを募集しています(勉強やクラブ活動などの OB のための会)。会の内容は、意見や情報交換を年 2、3 回予定しています。公認の OB 会や会場になることを目指します(明るく自由な会で!)。どなたでも参加自由。興味ある方はお気軽にご連絡下さい。

塩田洋彦
38 回生・柔道部 OB、現在中野地域で日米英語・歌などを教えています。
〒165-0027 中野区野方 2-64-13 Tel/Fax 03-3388-1967

白馬村での催し物に
参加しませんか?
黒菱山荘の管理で大変お世話になって
いる、対岳館の丸山庄司さんから、三月下旬の
「落味噌の会」五月下旬の「ブルーベリージャ
ムの会」のお誘いがありました。「落味噌の
会」は三月下旬に白馬村で落の採集から仕上
げまでお手伝いし、お土産に手作りの落味噌
を持ち帰る楽しい企画です。五月下旬には同
じように「ブルーベリージャムの会」の開催を
予定しています。
まだ詳細は決めていませんが、詳細が決ま
りましたら同窓会のホームページなどでご案
内します。またご興味のある方は「石神井ク
ラブ」までお問い合わせ下さい。
石神井クラブ 03-3319-1122
城 和裕(高校十二回)

黒菱山荘 委員会から



白馬の春、黒菱山荘委員会より

浦川伸一（高校三十二回・山荘長）

安曇野地方の春の訪れは、東京よりもかなり遅いのですが、さすがに六月ともなれば、残雪も一掃され、一年で一番緑が美しい季節となります。青空に映える美しい緑は、美しい空気とともに、心が洗われる思いがし、実にすがすがしいものです。

黒菱山荘は、毎年五月と十月に、同じ八方尾根黒菱地区に立つ学校施設関係者との会合である「黒菱山寮協議会」に長らく参加しています。以前は当校をはじめ、関西大学、東京薬科大学、名古屋大学、中央大学、明治大学、武蔵学園と、七施設がありました。関西大学、名古屋大学がすでに撤退、東京薬科大学も昨年撤退となり、現在は四施設を残すのみとなりました。なかなか学校としてこのような施設を維持管理していくのは、費用や運用などの面で各校にもご苦労があるようです。

今年、石神井高校が当番校ということもあり、現地管理人で日頃より大変お世話になっている「対岳館」の丸山徹也様にぜひとお骨折りいただいたの準備となりました。当校からは、林会長はじめ、山荘委員会からは現地で「グローブインスカラ」を経営なさっている石田先輩（高校十六回）、富士高校教諭の泉水君（高校三十三回）および浦川の四名参加となり、五月二十三日に現地にて会合を主催してきました。

この「黒菱山寮協議会」での主な議題は、地元業者に手配をお願いしている水道料金の支払い額の確認、運営上の課題の相談などです。水道料金は一立方メートルあたり一六五〇円と、非常に高価であり、貴重なものとなっています。

白馬は、八方尾根スキー場を核としたリゾート地として有名ですが、近年はスキー人口の大幅な減少が響いて、冬場でもスキー場はかなり空いている状況です。スノーボード人口も何年か増加を続けていましたが、頭打ち状態とのことで、客足が遠のいていることは寂しい限りです。ゲレンデ、景色、施設など多くの面ですばらしい環境にありながら、それが都会の人たち、特に若い世代の方々に十分知られていないのが残念でなりません。冬に限らず、一年中快適に過ごすことができるこの土地に、貴重な土地をお借りし、自前で施設を四十四年も維持し続けていることは、当校の誇りでもあります。また地元の方々のご尽力に支えられての施設運営だと思えますので、同窓生の皆さんも自分なりの楽しみ方を見出してみたいかかと思えます。黒菱山荘での宿泊、あるいは地元の旅館、ホテル、ペンションの利用でもいいと思います。うまくプランを練って、多くの方々がこの土地を訪れていただけることを願っています。



黒菱山荘のホームページ
<http://pws.prserv.net/jpinet.urakawa/>
(同窓会ホームページからのリンクでも見ることができます)
 八方尾根オフィシャルサイト
<http://www.hakuba-happo.or.jp/>

黒菱山荘の利用方法

山荘の管理は、黒菱山荘委員会が行っています。以下の利用規程について、ご理解の上ご利用ください。

利用資格 石神井高校生（ただし保護者の同伴が必要）・PTA会員・同窓会員・教員・その同伴者

宿泊費

石神井高校生	無料
同窓生、教員、元教員	2,000円
その他の方	2,000円
学生	1,000円（未就学児無料）

利用期間 夏休み期間中、年末年始およびスキーシーズンなどに利用期間を設定

利用申し込みの手順

まず大体の日程、人数等をお知らせいただき、下記までお問い合わせください。

連絡問い合わせ先

『黒菱山荘委員会 03-3385-8996(FAX共)泉水まで』

当日の小屋番の有無、申し込み状況、山荘概況等をお伝え出来ます。

所定の申込書にてお申し込み下さい。ご記入は正確にお願いします。

特に現役生、卒業生・一般などの区分、宿泊日・日数等を明記下さい。

申し込みから1週間以内を目安に指定口座に宿泊費を入金して下さい。

入金が確認されませんと現地で宿泊をお断りする場合がありますのでご注意ください。振込用紙の控えは、当日山荘で入荘時に小屋番が提示をお願いする場合がありますので、大切に保管の上、当日携帯して下さい。

指定口座

東京三菱銀行 新座志木支店(ニイザシキ) 普通 1603596
 石神井高校山荘委員会(シャクジイコウコウサンソウイインカイ)

申込書を受領し入金が確認されますと、折り返し『山荘利用のしおり』をお送りします。

FAX連絡が可能な方にはFAXで、その他の方には郵送で、少なくとも入荘1週間前までに送付します。万一期日までにお手元に届いていない場合は、ご連絡ご確認下さい。

今年は10月1日(土)14:00に日比谷公会堂ロビーに集合

校歌祭に参加しよう!



平成8年11月5日毎日新聞東京版朝刊

東京都が後援のため、各新聞社も取材に訪れ、その日の紙面に空きがあると扱われることも多く、またテレビ取材も入り、昨年はNHKの夕方のニュースで取り上げられました。

「東京校歌祭へ参加しませんか!」...毎年「きずな」誌上で参加を呼びかけている東京校歌祭。日比谷公会堂で校歌を歌う、というだけの集まりなのですが、同窓生のみならずにもっと良く知っていただくために、運営役員の目から見た「校歌祭の一日」をご紹介します。



例年正午に各校の役員が日比谷公会堂に集合。クラシックな日比谷公会堂の2階ロビーに各校が受付カウンターを設置します。各校から集まる役員は平均年齢はゆうに60代。中には羽織袴に学帽、という旧制スタイルの参加者も。



各校の出演順で集合時間が設定されていて、参加者が集まってきます。全学校の出場者はとても公会堂に入りきらないので、各校ごとに集合時間もずれていて、自分の出番が終わると参加者のほとんどは帰ってしまうという、ちょっと不思議ですが合理的なシステムです。



本番前の練習。練習場所はないので、日比谷公園で野外練習です。初めての参加者は吹奏楽の伴奏で歌う快感にびっくり。

あっという間に本番。新旧校歌を歌うのですが、あっという間にステージは終わり。

「あ～終わった!」と一安心。楽しく記念写真のお時間です。



校歌祭のテーマソングというわけではありませんが、《上げば尊し》の全体合唱で校歌祭は無事終了。あとは片づけ。

一足先に石神井の参加者の打ち上げパーティが始まっています。これが目的で参加する人も?同期の方たちで誘い合わせての参加も多いですよ。

第13回東京校歌祭は10月1日(土)14:00から日比谷公会堂で開催されます。石神井高校は本年も参加しますので、例年同様、多数のご来場・ご出演をお待ちしています。
問合せ先 高橋一夫(高20回・副会長) Fax03-3991-3586 メールdennsha007@hotmail.com

二十一世紀の石神井現役生の姿

長い歴史を誇る都立石神井高校は、旧制中
学から数えると、まさに祖父と孫の年代差が
あります。戦中から戦後へ、また高度成長期
からバブルの時代へと、同窓生の皆さんが学
生時代を過ごした時期も多種多様です。

二〇〇五年の今、現役石神井生の姿を、
様々な角度から教務部の瀧本秀人先生にお伺
いしました。

学校群制から学区制へ、そして今は自由
選択へと都立高校の制度も変わってしま
した。そんな中で石神井高校には、今ど
んな生徒たちが集まっているのでしょ
うか？

現在、校舎の改築もあり、一学年六学級に
なっています。新校舎の改築後は七学級に戻
る可能性もありますが、少子化の問題もあり
学級数の増減は微妙です。以前は、中野・練
馬・杉並区(旧第三学区)から生徒が来てい
ましたが、現在は学区制が廃止され、広く都
内から集まっています。とはいえ、都内東部
からのものは少なく、割合としては、旧第三
学区が七割、西東京市などの二三区外から
の生徒が三割といったところです。

どうして二三区内の都立高校に人気が
あるようで、石神井にも拝島あたりから通学



お話を伺った瀧本秀人先生

している生徒もいます。それだけ入学試験の
倍率も高まり、それに伴って学力の質的向上
はあると思います。本校の場合、クラブ活動
などに人気があり、過去に一度だけ二次募集
になったことがあるものの、現在は校舎を改
築する時期にあっても、ある程度の入試競争
率を確保できています。

石神井高校はクラブ活動が盛んなこと
で知られていますか？

現在、生徒の八割が何らかのクラブに属し
て活動しており、これは都立高校の中ではと
ても高い比率になっています。中でも運動部
の比率が他校より高いのが特徴ですね。

その背景には、単に本校のクラブが試合な
どで良い成績を収めているからだけでなく、
都立高校でクラブ活動をしたい子ども達の行
き先が少なくなっているという問題がありま
す。二三区への集中もさることながら、少
子化で廃校や組織変更になる学校が出てきて
いることも一因です。例えば、都立久留米高
校は総合学科高校へ移行するため募集停止に
なっているのですが、そのためにサッカーで
有名な同校を目指していた中学生が、石神井
に志願するといったケースもあるようです。
実際、本校のサッカー部は今年百名に及ぶ部
員を抱える盛況ぶりになりました。

サッカー部、バスケット部は、都立の中で
はかなりの実力を持っていますし、ラグビー
部は関東大会を目指す位置にいますと思いま
す。私が指導している男子バスケット部は約
六十名の部員があり、都立の中ではなかなか
がんばっていますね。女子ソフトボール部、
女子バレーボール部もよい成績を残していま
すし、柔道部は男子女子ともたくさんの人
賞経歴があります。また男子バレー部は、今
年度異動されました関先生のご指導のも
と、昨年度の都立高校大会で優勝を果たしま

した。

それから、どうしても運動部のイメージが
強い本校ですが、文化部の活躍にもめざまし
いものがあります。石神井といえばダンス部
と言われるほどの知名度ですし、吹奏楽部
はコンクールの東京地区大会で金賞を受賞し
ているほか、軽音楽部も高校対抗バンド合戦
で入賞しています。また高校のクラブ活動と
しては意外なのですが、本校のファッション
部は文化祭で校内モデルを使つてのファッ
ション・ショーを行つており、これは個人的
に素晴らしいと思えましたね。

以前の石神井高校というと、『体育祭』
が有名でしたが？

もちろん現在でも『体育祭』は大変盛んで
す。ただ、たぶん同窓会の皆さんの頃とは異
なり、チアガールの応援団ではなく、女子
も硬派の応援団スタイルになっています。女
子がさらし木綿を巻いて応援する姿を見た親
御さんが、娘の石神井高への進学を躊躇し
た、という噂を耳にしたこともありませう。こ
れは本当か分かりませんが、本校が女子に比
べて男子の人气がより高いことは事実です。
『体育祭』での問題は、これだけクラブ所属
の比率が上がってくると、団長・応援団長の
候補者がクラブと重なってしまう、というこ
とです。パワフルに活動している連中はクラ
ブでも重要なポジションにすることが多いの
で、当人達が選択に悩んでいます。

クラブによっても、例えば野球部は春が終
わって夏の甲子園予選の前なので都合です
が、サッカー部やバスケット部は大会スケ
ジュールにぶつかってしまします。当人達に
とってはどちらも大切なので、悩んでいるら
しく気の毒ですね。

いわゆる学校が荒れるとか指導が難

しい、という話を聞きますか？

もちろんトラブルが全くないということ
はないでしょうけれど、石神井では私の知る
限りでは校内暴力のようなものは聞いたこと
がありません。生徒の間で縦の信頼関係のよ
うなものがクラブや体育祭などで確立してい
ると思いますし、本校の生徒は基本的に素直
な子が多いですね。

石神井生の卒業後の進路は？

約六割が大学・短大に進学し、あとの三割
が専門学校進学といったところです。五年ぐ
らい前に比べて、大学の進学率が上がってき
ている状況です。都立高校そのものの進学傾
向も以前と大きく変わって多様化し、専門学
校志向の生徒も少なからずいます。保育系や
美容師などの美容学校、また介護や理学療法
関連の専門学校を目指す生徒も多いですね。
昨今では、下手な大学よりはるかに入学試験
が難しい専門学校もあり、今年も非常に難関
と言われる美容専門学校に合格した生徒がい
ます。こういったしっかりとした職業観の上
で、目標を目指す生徒が多いのも石神井の特
徴かもしれません。

最後にひとこと？

現在、都立高校教諭は同じ高校にあまり長
く留まらず、最近では六年が限度なので、担任
を二巡できなくなっています。体育祭などで
も校内の段取りを知る先生が少なくて大変で
すね。石神井は教師にも人気校なので、長く
居座るわけにもいかなないのでしょうが笑。
聞き手：同窓会 板谷

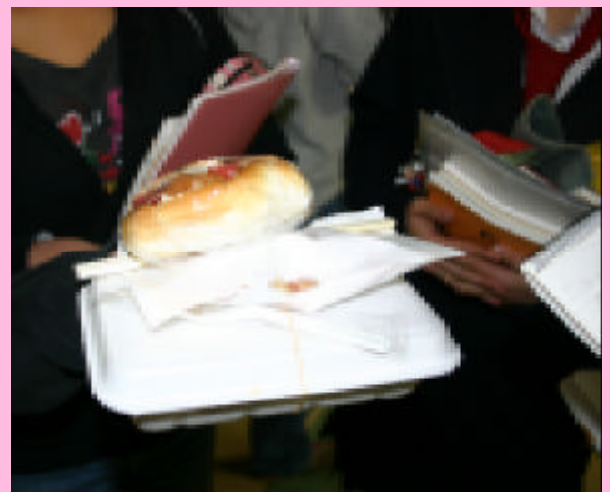
当世石神井生気質 今日のお昼は？編



訪問したのは5月13日。石神井生のお昼事情は、お弁当派が大多数だそうです。パン屋さんの出張販売は昔からありましたが、現在ではお弁当屋さんもお出張してきており、飲み物を含めて3つのお店が1階にならんでいます。お弁当屋さんによると、一日200食以上でとのこと。お弁当の400円は安いな〜？と感じたのですが、よく見るとかなり大盛り。やはり若い子たちの食欲は旺盛です。



お弁当組は校内で好きなところでお弁当を広げています。でもここでお弁当できるのもあとわずかですね。



1年女子の佐藤さん(ダンス部所属)の今日のお昼を教えていただきました。お弁当さんのカレーライスにチリピーンズ入りパン、それにイチゴ入りクリームパン。しめて600円也。食べ盛りでうらやましい！

Special Thanks to

5/13(金曜日)偶然にもA棟・B棟あたりで昼食を楽しもうとしていた皆さん。何がなんだかよくわからないながらも笑顔でご協力いただき、ありがとうございました〜

2004 ~ 2005 年同窓会 この一年



同窓会誌「きずな」第54号 平成17年6月発行

発行人 同窓会会長 林 弘
 発行所 東京都立石神井高等学校同窓会
 東京都練馬区関町北4-32-48
 印刷所 株式会社文明社 東京都新宿区榎町79番
 Tel 03-3203-6617

編集スタッフ

板谷方彦 (27回) 鶴田(高坂)洋子(27回)
 高橋一夫 (20回) 勝見(別所)鈴代(20回)
 写真提供・石井晴子さん(24回)ほか

ご連絡先 E-mail amjack@shakujii-club.gr.jp
 また、石神井クラブ
 〒164-0002 東京都中野区上高田1-14-7「青島」本部内
 Tel/fax 03-3319-1122
 高校にご連絡されると、担当がありませんので、上記にご連絡ください。



石神井高校同窓会のホームページは、単に情報を発信するだけでなく、クラブ別、期別の会議室や、会員の住所変更の受付機能など多彩なページを持って、楽しまれています。まだごらんになったことのない方は、ぜひアクセスしてみてください。

<http://www.shakujii-club.gr.jp>

総会当日7/2までにもニュースを更新しますので、ぜひチェックしてください。